

人工物(インプラント)による乳房再建とは



広島市民病院 形成外科 身原弘哉

どのような手術ですか？

人工物(インプラント)を用いて失った乳房の形態を再現する手術です。通常の乳房全摘術では、切除によって皮膚が不足するため、皮膚を伸ばして補う必要があります。初回の手術で取り除いたところに組織拡張器(水風船の様なもの)を挿入します。



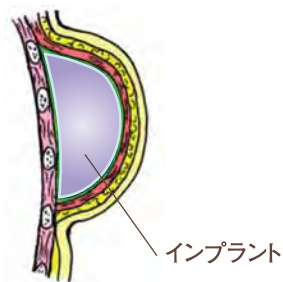
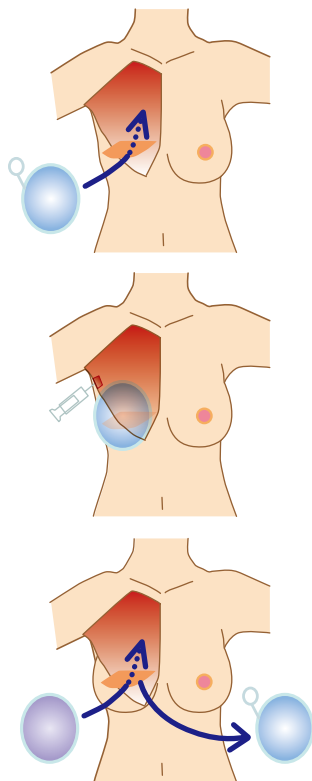
手術後に通院で少しずつ生理食塩水を注入して大きくします。ちょうど、妊婦さんのお腹が伸びるように、皮膚と筋肉が伸びてきます。



初回手術でスペースを作るために入れた組織拡張器は6ヶ月以降にインプラントへ入れ替える手術を行い、それによって乳房の形態が整います。

どのようなインプラントを使いますか？

現在の主流は“コヒーシブシリコンインプラント”で固形に近く、外側の膜が破れてもシリコンが流出しないため、安全性が高いとされています。しかし過去の液体バッグと比べると質感は硬めです。



この手術が出来ないことはありますか？

ほとんどの乳房切除の手術後で可能ですが、大胸筋が切除されている場合や、皮膚が閉じられないような大きな欠損の場合は難しい場合があります。また放射線治療を受けると、皮膚が弱くなったり、伸びにくくなったりするため人工物の再建が難しい場合があります。

起こる可能性のある合併症やリスクについて

どのような手術でも起こりえる合併症(出血や感染など)の他に、特有の合併症として再建乳房が変型したり硬くなったりすることが約10%あります。これは被膜拘縮(ひまくこうしゅく)というもので、インプラントの周囲が硬くなることにより起こります。これを防ぐ方法として、あらかじめ予防薬を内服したり、固くならないように定期的なマッサージを勧めています。発生した場合の対処としては、手術を行うこともあります。インプラントの破損も、ごくまれに起こることもあります。この場合、交換もしくは抜去を行います。

自家組織と比較したインプラントの利点と欠点を教えてください

利点は、①手術する範囲や影響が小さいこと

- ②身体の健康な部位に傷跡や組織を取り除かなくてすむこと
- ③再発時でも異常の発見が容易であること

欠点は、①手術回数が増えること

- ②保険が通らないインプラントの場合は自費診療で費用がかかること
- ③インプラントの種類が限られているため、ある程度の妥協を要する場合があること